

復帰後の沖縄で最大の結集！ 日米政府は10万の声を聞け

オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会

オスプレイ拒否と10万1千人が結集

9月9日、沖縄宜野湾海浜公園において、「オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会」が10万1千人を結集して開催され、オスプレイ配備計画の即時撤回と米軍普天間飛行場の閉鎖移転を求める決議が採択されました。会場はイエローカードを超え、すでにレッドカードだとして、会場は赤一色で染められました。J R 総連として33名が参加し、東海労としては2名が参加しました。

市街地の真ん中に居座り続ける軍事基地は誰を守ろうとしているのか

1995年に米兵による少女暴行事件が発生し、沖縄県民の怒りの声を上げました。県民の強い抗議の声に押され1996年日米政府は普天間基地の全面返還をすることに合意したのです。しかし、16年たった今でも居座り続けています。そして各地で墜落事故を起こしている欠陥機オスプレイを配備しようとしています。県民の怒りは頂点に達しています。オスプレイ配備はアラブ地域から極東へ軍事力をシフトするアメリカの戦略にのっとたものです。

ハワイやアメリカ本土でその危険性のため配置が見送られているにもかかわらず、



日本では強引に計画が進められようとしています。南国の暑い日差しの中、見ず知らずの人がそっと黒糖の小さな粒を分けてくれました。こんな優しい人たちの思いを私たちが伝えていかなければと思いました。終了後、ヘリポート建設が計画されている沖縄北部の高江地区の小中学生が地元の現実を訴えている姿が印象的でした。

私たちはあらゆる戦争政策に反対します！！